

4年ぶりグループ優勝

リーグ戦に弾み

関東大学春季ラグビー大会CグループII
4月28日〜6月9日、専大伊勢原グラウンドほか

2015年以来となるCグループ優勝を成し遂げ、8月に開幕する関東大学リーグ戦に弾みをつけた。

前年度の関東大学リーグ戦の順位によってA、B、Cの各グループに分かれる今大会。専大は、中大との開幕戦を21-26の1トライ差で惜敗するも、成蹊大に69-17、続く日体大に90-0で完勝。良い流れのまま、第4戦は関東学院大を57-26で圧倒した。最終の立教大戦は、雨でボールが滑りやすく、何度かトライのチャンスを生じたが、下級生の活躍でトライを量産。48-10の危ない試合展開でCグループを制した。

6月30日に秩父宮ラグビー場で表彰式が行われ、立教大戦でディフェンスを交わす郡司主将



今大会は障害馬術、馬場馬術、総合馬術の3競技が行われた。深谷光明

3種目団体2位

関東学生馬術競技大会II 6月19〜23日、山梨県馬術競技場



今大会は障害馬術、馬場馬術、総合馬術の3競技が行われた。深谷光明

総合馬術競技で華麗に障害を飛び越える鈴木

れ、郡司健吾主将(経営4・日川高)が賞状を受け取った。郡司主将は「春シーズンに目標としていたディフェンス面は」(高田康平・経営3)

徐々に良くなっているもこの完璧ではない。さらけ取った。郡司主将は「春シーズンに目標としていたディフェンス面は」(高田康平・経営3)

主将(商4・安城農林高)が馬場馬術で3位、鈴木良明(経営4・上鶴間高)が総合馬術で3位に入賞。4年次生の活躍で、3種目総合で団体2位となった。

深谷主将は好成績にも満足していない。「個人で結果を残した人馬もいるが、団体の結果が全て。緊張感に欠けた部分があり、ミスにつながったと思う。11月の全日本学生馬術大会に向けて悔いの残らないようにチームをまとめていきたい」と厳しい言葉を残した。

鈴木は「練習の成果を発揮でき、今までの試合で一番良い成績だった」と入賞を喜ぶも、「次の試合に向けて、馬場馬術のトレーニングに励みたい」と貪欲な姿勢を見せた。(内田)

男子5位

全国大学ゴルフ対抗戦II 6月20〜21日、北海道・苫小牧ゴルフリゾート

上位4人の2日間のトータルスコアを競う今大会。トップと17打差のトータル561(280・281)で5位となった。

初日は柳山勝弘(商4・拓殖大学紅陵高)が3アンダー、平本世中(経営2・厚木北高)が2アンダー、トップと6打差の5位。2日目も柳山が3アンダー、平本、大澤優(経営2・開志国際高)が2アンダーと安定したプレーを見せたが、上位のチームが崩れず、順位を上げることができなかった。

ベスト8

全日本学生アーチェリー男子王座決定戦II 6月15〜16日、静岡県つま恋リゾート

4人の合計得点で競う予選ラウンドでは、吉田(和希(経済3・千葉黎明高)が全体3位の607点をマークするなどチームをけん引し、合計1683点の8位で決勝ラウンドへ。トーナメント方式の決勝ラウンドは、今大会を制した日体大に準々決勝で敗れ、ベスト8に終わった。

予選グループ戦で金沢星稜大を降し、決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは福島大、東北学院大にストレート勝ちし準々決勝に駒を進めたが、青学大に22-25、23-25、25-20、21-25と惜敗し、ベスト8で終わった。東拓巳主将(経営3・開智高)は「3部リーグ戦は6勝1分で1位。勢いそのまま臨んだ大東大との入れ替え戦を30-24で制し、見事2部復帰を果たした。阿部耕平主将(経済3・昭和第一学園高)は「リーグ最終戦で文教大に勝利したことで、入れ替え戦もい流れで試合に臨むことができた。秋季リーグ戦に向けて、個人個人の技術の向上とチームの連携をさらに強化していきたいと話した。昨秋の4部リーグから順調に駆け上がったハンドボール部。2部の舞台でも彼らの活躍に期待が高まる。(白鳥)

準々決勝惜敗

東日本バレーボール大学選手権II 6月26〜30日、北海道・北海きたえーる

予選グループ戦で金沢星稜大を降し、決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは福島大、東北学院大にストレート勝ちし準々決勝に駒を進めたが、青学大に22-25、23-25、25-20、21-25と惜敗し、ベスト8で終わった。東拓巳主将(経営3・開智高)は「3部リーグ戦は6勝1分で1位。勢いそのまま臨んだ大東大との入れ替え戦を30-24で制し、見事2部復帰を果たした。阿部耕平主将(経済3・昭和第一学園高)は「リーグ最終戦で文教大に勝利したことで、入れ替え戦もい流れで試合に臨むことができた。秋季リーグ戦に向けて、個人個人の技術の向上とチームの連携をさらに強化していきたいと話した。昨秋の4部リーグから順調に駆け上がったハンドボール部。2部の舞台でも彼らの活躍に期待が高まる。(白鳥)

2部復帰果たす

関東学生ハンドボール春季リーグ戦II 5月26日、国士大

3部リーグ戦は6勝1分で1位。勢いそのまま臨んだ大東大との入れ替え戦を30-24で制し、見事2部復帰を果たした。阿部耕平主将(経済3・昭和第一学園高)は「リーグ最終戦で文教大に勝利したことで、入れ替え戦もい流れで試合に臨むことができた。秋季リーグ戦に向けて、個人個人の技術の向上とチームの連携をさらに強化していきたいと話した。昨秋の4部リーグから順調に駆け上がったハンドボール部。2部の舞台でも彼らの活躍に期待が高まる。(白鳥)

ユニバ出場選手

第30回ユニバーシアード競技大会(7月3〜14日、ナポリ)に在学生、卒業生合わせて4人出場。

◇水泳部(水球) 市村朋也(経済4・山形工高)

◇ラグビー部 野口宜裕(法4・早稲田摂陵高)

◇卓球部 安藤みなみ(平31商)

◇バスケットボール部 渡部友里奈(平31文)

※出場資格は17歳以上28歳未満で大学が大学院に在学中、または大会前年に卒業した選手。

長谷川が日本人トップ

チームは15位

全日本大学駅伝関東地区選考会II 6月23日、神奈川県・相模原ギオンスタジアム

8人×1万5千の合計タイムの上位5大学に与えられる全日本大学駅伝(11月3日、名古屋・熱田神宮)三重・伊勢神宮8区間の106.8kmの関東代表の座を目指したが、専大は15位に終わった。しかし、個人では人選手トップの快走。全日本大学駅伝に日本学連選抜チームのメンバーと



長谷川淳監督は、「チームは15位だったが、長谷川が全日本大学の大舞台を経験できることは今後につながる」と話し、10月の箱根駅伝予選会に向け「夏合宿を全員で乗り越え、充実した戦力で臨む」と意気込んだ。(池村友輔・文2)

快走する長谷川II撮影・内田裕士(法3)

谷澤・石原組ベスト4

関東学生バドミントン選手権II 6月1〜23日、千葉大学ほか

女子ダブルスで谷澤安衣(商4・日本橋女学館高)・石原優美(文4・日本橋女学館高)組がベスト4にランクインした。優勝を目指して挑んだ谷澤・石原ペア。トーナメントを順当に勝ち上がり、迎えた準々決勝では本田悠理(文1・埼玉栄高)・遠藤理彩(文1・聖ウルスラ学院英智高)ペアと対戦。試合は谷澤高がベスト8に進出。今年度から新設された混



安定感のあるプレーを見せた石原(手前)と谷澤

池澤みずほ(商3・埼玉栄高)ペアがベスト8入りした。(村山健人・商2II写真も)

専大ボウリング部は8勝2敗で2位。1位が合同チームだったため、専大が1部に復帰した。清水大地主将(文3・立正大付属立正高)は「今季は大事な試合で勝ち切ることができた。チームの団結力と、出場メンバーの強い気持ちがい流れを作り出した」と振り返った。また、「関東学生秋季リーグは、すべての試合で最終ゲームまで気持ちを切らすことなく戦いたい。上位に食い込んでいくように課題を一つずつ克服していきたい」と話した。(白鳥順也・経済3II写真も)

1部復帰

関東学生ボウリング春季レギュラーリーグ戦(2部)II 4月14日〜6月23日、足立区・マルアイボウリングほか

専大ボウリング部は8勝2敗で2位。1位が合同チームだったため、専大が1部に復帰した。清水大地主将(文3・立正大付属立正高)は「今季は大事な試合で勝ち切ることができた。チームの団結力と、出場メンバーの強い気持ちがい流れを作り出した」と振り返った。また、「関東学生秋季リーグは、すべての試合で最終ゲームまで気持ちを切らすことなく戦いたい。上位に食い込んでいくように課題を一つずつ克服していきたい」と話した。(白鳥順也・経済3II写真も)



◇ラグビー部 友池隆汰(経済1・東福岡高) ワールドラグビーU20トロフィー2019(7月9〜21日、ブラジル・サンパウロ市) ※U20日本代表



◇卓球部 安藤みなみ(平31商)

◇バスケットボール部 渡部友里奈(平31文)

※出場資格は17歳以上28歳未満で大学が大学院に在学中、または大会前年に卒業した選手。



国際大会出場選手